

持続可能性の構築 - 和紙産業における環境保全と債券市場 -

本論の目的は、農山村地域における伝統的地場産業(ここでは、和紙を取り上げる)の環境的側面を調査し課題を明確にすること、そしてその産業を継続可能にする投資の将来性を検討することである。

わが国における和紙の最大限量栽培地である高知県および第2位である茨城県において、環境保全効果の高さを確認するため、畑が環境と防災面に与える影響の現地調査を行った。投資に関しては、文献調査およびWeb調査を行った。

手漉き和紙の調査結果として、和紙原料畑は農薬をほとんど使わない栽培による再生能力の高い土地であり、防災効果の高いことが筆者によって確認された。また、年々栽培面積と生産高は減少していることも確認された。農地が標高の高い斜面にあることと、地域の過疎化・高齢化の課題も明らかになった。茨城県では和紙栽培における基礎データの欠如、高知県では廃畑後の使用状況に関する情報の欠如が確認された。これらのことは和紙栽培のLCAを行う上での障害になった。機械抄き和紙の問題点として、森林認証に関しては、機械抄き和紙産業の輸入先や認証された木材の使用等の起訴状方は、容易に得られないことが判明した。さらに、高知県と茨城県における機械抄き和紙産業の活性化のための投資の実態調査を試みた。農山村地域における産業の持続可能性を高める投資の活用は、将来性があると考えられる。しかしながら、長期的な情報が得られておらず可能性に留まっている。

手漉き和紙産業は、栽培状況の悪化、過疎化・高齢化の問題が明確になっていない本論により、手漉き和紙産業の実態が明らかになり、手漉き和紙産業のすいた害進んでいる現状を確認した。かかる問題の克服には、何らかの対策が必要である。農山村地域の地場産業である手漉き和紙産業に、証券化等による新しい投資を呼び込むことは解決穂王の1つになるだろう。

このような農山村地域の衰退産業に対する研究は、環境と金融の両面の重要性が高いと認められるので、引き続き発展することを望む。